



第22回全国障害者スポーツ大会 立ち幅跳びと50メートル走で優勝

森下実咲さん



PROFILE

もりした みさき(合戸) 18歳
生まれつき弱視(めがねなどの矯正は効かない)で、現在の視力は0.07ほど。YouTubeで動画を見ることが息抜き。

森下実咲さん(合戸)が、10月29日から31日にかけて、栃木県で開催された「第22回全国障害者スポーツ大会」の立ち幅跳びと50メートル走の視覚障害1部で見事優勝した。

3年分の思いをぶつけ全国優勝

実咲さんは、浜松視覚特別支援学校高等部の3年生。幼い頃から運動が好きで、年中から小学6年生まで週に1回体操教室に通っていた。

静岡視覚特別支援学校中学部に進学後、県主催のパラ陸上教室に参加するようになる。教室では当初「走り幅跳び」を競技していたが、弱視のために踏み切りのタイミングをつかむことができず、思うように競技することができなかつた。そんなとき、踏み切り板に両足を揃えた直立姿勢から、助走をせずに遠くへ跳ぶ能力を競う「立ち幅跳び」の存在を知り、種目を変更した。それからは、運動好きなお実咲さんの才能が開花し、みるみる記録が伸びていった。

全国大会への出場は令和元年から決定していたものの、

台風や感染症対策のため中止を余儀なくされ、悔しい思いをした。今大会では、3年間の練習の成果を発揮し、2種目で優勝。さらに、立ち幅跳びでは2メートル11センチを跳び、大会記録を更新した。実咲さんは「優勝だけではなく、大会記録を更新できるとは思わずぐくぐうれしかったです」と笑顔で振り返る。また、今後の活動について「全国大会に年齢制限はありません。これからも出場し続けられるように努力する」と活力にあふれている。

何事にもチャレンジ

実咲さんは、小学1年生のころからピアノやハーモニカを習い、現在は韓国語を学ぶなど運動以外のことにも積極的に取り組んでいる。「障がいがあるからといってできないことはないと思う。これからいろいろなことにチャレンジしたいし、さまざまな人たちと交流しながら取り組んでいきたいです」と顔をほころばせる実咲さん。一生懸命頑張る彼女は輝いて見えた。